

改定日：2010年12月10日

製品安全性データシート (MSDS)

1. 化学物質等及び会社情報

1.1 化学物質等の名称

製品名： タイヤ用パンク補修液

1.2 会社情報

会社名： 株式会社ブリヂストン
住所： 〒187-8531 東京都小平市小川東町三丁目1番1号
電話番号： 042-342-6273
Fax 番号： 042-342-6342
緊急時の連絡先（電話）： 042-342-6273

1.3 推奨用途 タイヤのパンク補修

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS 分類結果

物理化学的危険性

引火性液体 区分外

健康に対する有害性

呼吸器感作性 区分外※

皮膚感作性 区分外※

環境に対する有害性

分類できない

※ 本製品には呼吸器感作性区分1及び皮膚感作性感作性区分1に該当する重合ロジンが含まれており、本MSDSにおけるGHS分類はこの重合ロジンに基づき行った。しかし、本製品にはロジンを由来とする化合物が含まれており、感作性に関与するすべての物質が特定されているわけではないことに注意すべきである。

2.2 GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル： なし
注意喚起語： なし
危険有害性情報： なし
注意書き： なし

2.3 重要危険有害性 なし

3. 組成及び成分情報

3.1 単一物質・混合物の区別 混合物

3.2 一般名または化学名 タイヤ用パンク補修液

3.3 成分情報

化学名または一般名	CAS 番号	官報公示整理番号	濃度(%)
スチレンブタジエン共重合体	9003-55-8	(6)-134	10～20
プロピレングリコール	57-55-6	(2)-234	40～50
重合ロジンエステル	68512-68-5	既存化学物質	3.5
フマル化ロジンエステル	68424-99-7	既存化学物質	
重合ロジン	8050-09-7	(7)-934 (トール油ロジン) ※	0.4
フマル化ロジン	65997-04-8	既存化学物質	0.2
高級脂肪酸エステル	登録済み	既存化学物質	0.7
界面活性剤・その他	登録済み	既存化学物質	0.3
水	7732-18-5	該当せず	30～40

※ロジンには、トール油ロジン、ガムロジン、ウッドロジンの3種類がある。
ガムロジン、ウッドロジンは天然物で対象外

3.4 GHS 分類に寄与する危険有害成分

プロピレングリコール、重合ロジン

4. 応急措置

4.1 暴露経路による応急措置

吸入した場合： 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合： 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合： 目に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。
無理に吐かせてはならない。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

4.2 予想される急性症状及び遅発性症状

吸入した場合：咳、咽頭痛
皮膚に付着した場合：発赤、痛み
目に入った場合：発赤、痛み
飲み込んだ場合：腹痛、下痢

4.3 応急措置をする者の保護

通常は保護具等の着用の必要はない。
状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

小規模火災： 粉末消火剤、耐アルコール性泡、二酸化炭素、霧状の水
大規模火災： 耐アルコール性泡で一挙に消火する。

5.2 使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

5.3 特有の危険有害性

火災による不完全燃焼で、黒煙、一酸化炭素などの有害なガスを生じることがある。

5.4 特有の消火方法

消火作業は、可能な限り風上から行う。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを規制する。
火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火作業により、本製品が水域等に流出しないように注意する。
容器周辺が火災の場合、容器を安全な場所に移動する。移動できない場合、容器に注水して冷却する。

5.5 消火を行う者の保護

消火作業の際は、必要に応じて空気呼吸器や耐火服を着用し、風下での作業を避けること。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

本製品には微臭がある。気分が悪くなった場合、空気の新鮮な場所に移動すること。
特に風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。
周辺の着火源となるものを速やかに取り除いてください。
作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

6.2 環境に対する注意事項

河川等の水域に少量でも流出すると白濁する。
公共水域への流出入には特に注意すること。万一、流出入した場合、監督官庁に連絡し、特に水道水の取水口付近で漏出させた場合は、取水を至急中止するための連絡を行うこと。さらに弊社の緊急連絡先にも至急連絡してください。

6.3 回収、中和、封じ込め、および浄化の方法

危険でなければ漏れを止める。

少量の場合、自然乾燥させるか、乾燥砂、土、ぼろ布などに吸収させる。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、ドラム缶などの容器に回収するかバキュームカーなどで回収する。

6.4 二次災害の防止策

付近の着荷源となるものを、速やかに取り除くとともに消火剤を準備すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

技術的対策： 微臭がありますので、換気の良いところで使用すること。皮膚に触れないように必要に応じて適切な保護具を着用すること。

安全取扱い注意事項： 子供の手の届かないところに置くこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
高温物、スパーク、火炎を避けること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

7.2 保管

混触禁止物質： 強力な酸化剤、有機酸化物、禁水性の化学物質
保管条件： ボイラーなどの熱源付近を避けること。
直射日光、凍結は避けて、温度が 5℃～40℃の屋内に保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

8.1 管理濃度・作業環境評価基準

設定されていない。

8.2 許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

設定されていない。

8.3 保護具

呼吸器の保護具： 吸入するおそれがある場合、有機ガス用防毒マスクを着用する。
手の保護具： 必要に応じて、溶剤用の保護手袋を着用する。
目の保護具： 眼に入るおそれがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具： 必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

8.4 設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄剤のための設備を設ける。

8.5 衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観：	乳白色の液状（エマルジョン）
臭い：	極微臭
比重：	1.01
pH：	9.8
引火性：	引火せず
発火点：	200℃以上
溶解性：	水に無制限に希釈

10. 安定性及び反応性

一般の取扱い条件下では安定である。

危険な反応は特にない。

11. 有害性情報

11.1 製品の有害性 情報なし

11.2 成分（プロピレングリコール）の有害性

急性毒性： ラット（経口）LD₅₀ 20,000 mg/kg

眼刺激性： 眼を刺激する

長期/反復暴露： 皮膚感作性のおそれ

11.3 成分（重合ロジン）

急性毒性： ラット（経口）LD₅₀ 7,600～8,400 mg/kg

ウサギ（経皮）LD₅₀ 2,500 mg/kg

ラット（吸入・粉じん）LC₅₀ 2.3 mg/L/4時間

皮膚腐食性・刺激性： ラットを用いた皮膚刺激性試験において軽度刺激性

眼に対する重篤な損傷・

眼刺激性： ラットを用いた眼刺激性試験において軽度刺激性

呼吸器感作性： 感作性化学物質（日本職業・環境アレルギー学会）

気道感作性物質第1群（日本産業衛生学会）

皮膚感作性： 皮膚感作性物質（日本接触皮膚炎学会）
皮膚感作性物質第1群（日本産業衛生学会）

12. 環境影響情報

本製品が河川、湖沼などの水域に流入すると白濁する。
本製品が高濃度で水域に流入した場合、水生生物に悪影響を与えるおそれがある。

13. 廃棄上の注意

13.1 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

13.2 汚染容器および包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国際規制

国連番号： 該当しない
航空輸送： 該当しない
海上輸送： 該当しない

14.2 国内規制

陸上規制： 該当しない
航空規制： 該当しない
海上規制： 該当しない

14.3 緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号：該当しない

14.4 特別の安全対策：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法： 名称等を通知すべき危険有害物（ロジン）

海洋汚染防止法： 有害液体物質（Z類物質）（プロピレングリコール）

16. その他の情報

参考文献： 化学物質総合情報提供システム（CHRIP）GHS分類結果
(<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html>)
国際化学物質安全性カード
(<http://www.nihs.go.jp/ICSC/icssj-c/icss0321c.html>)

【注意】本MSDSは、JIS Z 7250:2005、JIS Z 7251:2006、JIS Z 7252:2009に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本MSDSの記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

会社情報

販売者: トヨタ自動車株式会社

〒471-8571 愛知県豊田市トヨタ町1番地

連絡先: 0565 - 28 - 2121